

■効果の見える河川事業  
徳島県 前川 総合流域防災事業

徳島県 東部県土整備局  
局長 東村 正行



前川は、徳島県東部に位置する藍住町の市街地を流れ、四国三郎と呼ばれる大河吉野川へと流入する流域面積約2.6km<sup>2</sup>、流路延長約1.5kmの一級河川です。

その流域は、山地がなく低平地が広がり、過去から度々浸水被害が発生していたため、昭和56年度から河川改修事業に着手し、吉野川合流点から、順次、河道の整備を進めて参りました。



事業着手後も浸水被害が続き、特に吉野川で戦後最大級の流量が観測された、平成16年10月の台風23号においては、藍住町内においても県道の通行止や家屋浸水等の甚大な被害が発生し、地域の住民の皆様からも早期完成が望まれました。

このような中、平成29年度には、河川整備計画に位置づけられた区間の改修を終え、浸水等に対する安全性が向上しました。

藍住町内は、交通網の発展も相まって宅地化や大型商業施設の出店も進んでおり、さらなる発展が見込まれます。引き続き、関係機関や地元住民と協力し、適切な維持管理に努めるとともに、ソフト対策の充実・強化を図り、さらなる浸水被害の軽減に取り組んで参ります。



■地域の安全・安心の実現へ

藍住町長  
高橋 英夫



徳島県の中央を流れる吉野川の下流北岸に位置する藍住町は、旧吉野川と吉野川に囲まれたデルタ地帯で、いわば、たゆまぬ吉野川の沖積によってできた平坦な土地で、海拔はわずか5.17m。板野郡のほぼ中央にあり、山がまったくない珍しい町です。かつては藍の栽培が隆盛を極め、全国的に広まりましたが、近年では肥沃な地味と温暖多湿で水利の便に恵まれた条件を生かし、全国有数の春エンジンの産地となっています。

また、清らかな吉野川の流れに面し、町の北側には旧吉野川、中央には正法寺川が流れています。昔のような水に親しむ風景を取り戻すため、本格的な親水公園の整備を進め、正法寺川浄化事業の一環として建設された東中富親水公園は魅力ある水辺づくりで国土交通省から手づくり郷土賞を受け、水にふれあう新しい公園として注目されています。そして、正法寺川沿岸に整備された正法寺川公園も園内につくられた西日本一の木造アーチ橋「みどり橋」は完成とともに大変話題となり、休日には人々の憩いの場として多くの親子連れの姿などが見られます。

一方で、近年の気候変動による台風の大型化や短時間に記録的な降雨がある線状降水帯が発生し被害をもたらしています。近年では、平成16年台風23号により、前川流域で甚大な浸水被害が発生しました。

そこで、県の前川・総合流域防災事業と連携しながら、本町においても、内水排除が行えるよう、排水路の整備工事を実施して参りました。その結果、平成26年の台風において、平成16年台風23号と比較し、浸水被害が軽減されました。

今後とも、県や地元住民と協力し、防災対策に取り組み、活力ある自立した町づくりを、そして安全・安心な町づくりを推進して参りたいと考えております。



正法寺川公園（みどり橋）



東中富親水公園